



青臭みの少ないリポキシゲナーゼ欠失大豆新品種「すずさやか」

水田利用部 大豆育種研究室 0187-75-1084

研究のねらい

国産大豆の定着化のため、特産的な取り組みができる付加価値の高い大豆品種が求められている。そこで、大豆が持つ独特の青臭みの原因となるリポキシゲナーゼが欠失し、東北地域に適した栽培特性を有する大豆を育成する。

研究の成果

大豆子実中のリポキシゲナーゼの3つのアイソザイム(L-1,L-2,L-3)が欠失しており、本品種から製造した豆乳や豆腐は青臭みが少なく、官能評価が良好である(図2)。また、粗タンパク質含有率は「スズユタカ」とほぼ同等で、豆腐加工適性も良好である。

成熟期は「スズユタカ」とほぼ同じで“中の晩”に属し、子実収量、裂莢の難易、最下着莢節位高および倒伏抵抗性は「スズユタカ」と同程度である。

ダイズモザイクウイルスのA、B、CおよびDの各系統に抵抗性で、本病に強い。またダイズシストセンチュウ抵抗性を有している。



スズユタカ すずさやか タチユタカ
図1 「すずさやか」の草姿

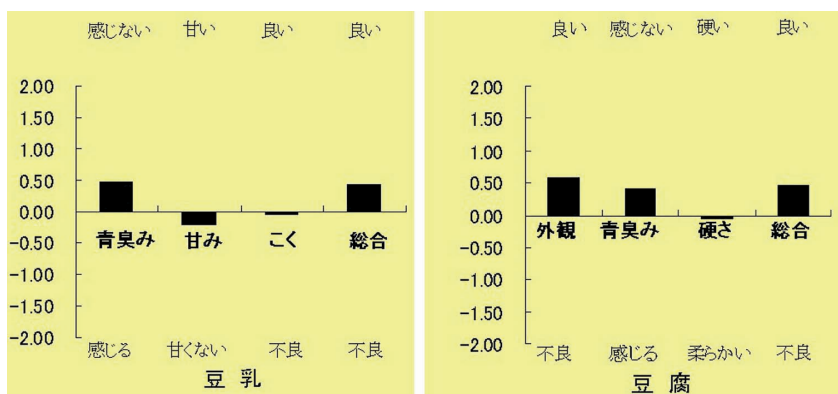


図2 「すずさやか」を原料とした豆乳と豆腐の食味官能試験
備考 n=24。広域JAにて加工調整した豆乳を使用。豆腐は
にがりを使用。「リュウホウ」を基準(0)として官能評価。

成果の利活用

栽培適地は東北中南部である。

秋田県が奨励品種(認定品種)として採用予定である。

リポキシゲナーゼは高い酵素活性を持つため、2%程度他品種の混入によっても青臭みが発生することから、本品種単独の集団栽培を行うとともに、収穫・調製時に他品種の混入が生じないように注意する。